

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	保健医療部 医療推進課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム		
施策名	【重点】地域医療を支える医療従事者の確保・育成		

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	県内の医師不足地域の医療機関に勤務する地域卒卒業医師数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	13	21	27	23
現況値	10人(2020年度)	実績値	16	24		
目標値	23人	達成率	123.1%	114.3%		
備考		達成度	5	4		

3 関連する事業名

- ・医学部地域卒医師養成緊急確保事業
- ・看護師等就労促進事業
- ・特定地域看護職員確保支援事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

<p>将来医師不足地域で勤務する医師を確保するため、岡山大学医学部医学科地域卒コース入学者4名に対して奨学資金を貸与した。</p> <p>地域医療支援センターによるキャリア形成支援、岡山大学に設置した寄附講座を通じて、地域医療マインドを宿した医師を養成するとともに、地域医療支援センターにおいて地域勤務を希望する地域卒卒業医師とのマッチングを行い、令和5年4月時点で24人が医師不足地域の医療機関で勤務することとなった。</p>
--

6 今後の施策推進に向けての課題

<p>今後とも、県内の医師不足の状況等の把握・分析を行い、医師の地域偏在や診療科偏在の是正に取り組む必要がある。</p> <p>また、地域卒卒業医師が医師不足地域での勤務に意欲ややりがいを持てるよう、大学・医療機関とも連携しながら、キャリア形成支援に努める必要がある。</p>
--

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 保健医療部 医療推進課
重点戦略	III 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム
施策名	【重点】地域における医療提供体制の整備

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	病床機能のうち回復期機能の充足率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	73.0	79.0	85.0	90.0
現況値	61.6% (2019年度)	実績値	62.2	65.6		
目標値	90.0%	達成率	85.2%	83%		
備考		達成度	3	3		

3 関連する事業名

- ・病床機能分化・連携促進のための基盤整備事業
- ・病床機能再編支援事業
- ・周産期医療対策推進事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

地域医療構想の実現に向け、回復期病床への機能転換や病床機能再編に取り組む医療機関に対して財政支援を行うとともに、各医療機関に対し、地域医療構想に関する具体的対応方針の策定を働きかけ、回復期病床が前年度と比べ222床増加した。
また、高度な医療を必要とする母胎や胎児を受け入れる周産期母子医療センターの運営や、分娩取扱施設での医師確保、資質向上の取組を支援するとともに、関係機関で構成する周産期医療協議会での周産期死亡症例の検証や課題への対応協議等を通じ、周産期医療提供体制の充実を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

民間を含めた医療機関に対し、地域医療構想に係る対応方針の策定を働きかけるとともに、各医療圏で延べ11回の地域医療構想調整会議を開催し、将来の医療ニーズを見据えた地域の入院医療提供体制の整備に向けた協議等を行ったが、不足する回復期病床の確保が計画どおりに進んでいない。
このため、今後は従来の取組に加え、地域住民の疾病別受療率や各医療圏での患者の流入の動向などのデータ分析を行い、地域の具体的な医療ニーズを見える化して医療機関にわかりやすく情報提供するなどにより、地域医療構想調整会議での議論の活性化を図り、各医療機関の主体的な取組が加速されるよう促していく必要がある。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	子ども・福祉部 長寿社会課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム		
施策名	【重点】地域包括ケアシステムの構築		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	介護予防のための通いの場への参加率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	7.9	7.9	8.0	8.0
現況値	7.9% (2019年度)	実績値	6.5	6.1		
目標値	8.0%	達成率	82.3%	77.2%		
備考		達成度	3	2		

3 関連する事業名

- ・岡山県地域医療介護総合確保事業(介護分)
- ・地域包括ケア体制推進総合事業

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

第8期岡山県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画に基づき、必要な介護サービス基盤の整備や介護人材等の育成・確保、各種研修会を通じた市町村職員の資質向上等の取組を推進することにより、地域包括ケアシステムの構築が図られた。「介護予防のための通いの場への参加率」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を達成することができなかった。

6 今後の施策推進に向けての課題

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、引き続き、必要な介護サービス基盤の整備や介護人材等の育成・確保等を進めるとともに、介護予防に効果が高いとされる週1回以上の体操を行う通いの場について、全ての市町村での設置を目指す。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 保健医療部 健康推進課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム
施策名	【重点】心と体の健康づくりの推進

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	成人の喫煙率	年度	2021	2022	2023	2024
			目標値	13.4	13.1	12.9
現況値	14.0% (2020年度)	実績値	12.8	13.7		
目標値	12.7%	達成率	※104.7%	※95.6%		
備考		達成度	4	3		

指標名	糖尿病性腎症による新規透析導入患者数	年度	2021	2022	2023	2024
			目標値	238	236	234
現況値	242人/年 (2018年)	実績値	230	268		
目標値	232人/年	達成率	※103.5%	※88.1%		
備考		達成度	※4	※2		

指標名	子宮頸がんの予防法について正しく知っている県民の割合	年度	2021	2022	2023	2024
			目標値	35.8	37.3	38.8
現況値	32.8% (2020年度)	実績値	41.5	35.6		
目標値	40.0%	達成率	115.9%	95.4%		
備考		達成度	4	3		

3 関連する事業名

- ・おかやま健康づくりアワード事業
- ・禁煙支援推進事業
- ・糖尿病性腎症重症化予防事業
- ・骨髄・末梢血幹細胞移植ドナー支援事業

4 施策達成レベル

2.7	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

<p>・大学生への喫煙や受動喫煙の害を伝える講義の実施や、県民・企業を対象とした、たばこの害や禁煙・受動喫煙対策の方法についてのオンラインセミナーの実施により、たばこへの意識を高めることができた。また、たばこをやめたい人を支援するため、従業員等に対する禁煙治療費助成を導入する企業・団体に治療費の一部を支援する取組を実施した。</p> <p>・糖尿病の予防について、県民への普及啓発を実施した。また、大学や医療機関、市町村等の関係機関とは、研修会や会議等を通じて、現状や課題等を共有するなどの連携を図った。さらに、市町村に対して、保健指導等に活用してもらうため、各種の健(検)診データ等の分析結果を提供するなどの支援を実施した。</p>
--

6 今後の施策推進に向けての課題

<p>・喫煙率のさらなる低下のため、引き続き、禁煙治療費助成事業の導入など禁煙に取り組む企業等が増加するよう、事業の周知を行うとともに、若者に対しても喫煙防止・禁煙促進を図るため普及啓発を行う必要がある。</p> <p>・糖尿病性腎症による新規透析導入患者数については、岡山県医師会透析医部会調査では、2020年で281人、2021年では274人と減少しているが、日本透析医学会調査では2021年度に年間新規透析導入数が増加しており、動向を注視していく必要がある。また、糖尿病性腎症による新規透析導入患者数の減少のため、引き続き、県民に対する普及啓発と、大学や医療機関、市町村等との連携強化に向けた取組を実施する必要がある。</p>
--

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	子ども・福祉部 福祉企画課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム		
施策名	【重点】福祉・介護の人材確保とサービスの質の向上		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	「おかやま☆フクシ・カイゴ職場すまいる宣言」登録数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	69	88	107	126
現況値	124事業所(2019年度)	実績値	222	262		
目標値	250事業所	達成率	321.7%	297.7%		
備考	2022年度:386事業所(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	5	5		

3 関連する事業名

・福祉人材確保等推進事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

介護職場認証評価制度「おかやま☆フクシ・カイゴ職場すまいる宣言」の実施により、働きやすい職場環境づくりに取り組む事業所の認証を行い、確認した取組内容を公表(見える化)することで、事業所の切磋琢磨を促し、福祉・介護業界全体のレベルアップ、福祉・介護職員の定着、求職者に選んでもらえる職場づくりを進めた。

6 今後の施策推進に向けての課題

高齢化の進展に伴うニーズの増大により、さらなる福祉・介護人材の需要が見込まれている。また、少子・高齢化の進展による労働力人口の減少から、福祉・介護人材の確保が一層厳しくなることが懸念されるため、国が行う処遇改善の対策と相まって、引き続き、関係団体・機関等と連携し、人材の確保・定着に粘り強く取り組む必要がある。なお、「おかやま☆フクシ・カイゴ職場すまいる宣言」の実施については、働きやすい職場環境づくりに取り組む事業所の積極的なPRに努め、引き続き、効果的な人材の確保・定着を図る必要がある。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	子ども・福祉部 障害福祉課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム		
施策名	【重点】障害のある人の自立と社会参加の促進		

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	障害福祉サービス利用者の一般就労への移行者数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	267	539	816	1,100
現況値	312人/年(2016~2019年度の平均)	実績値	357	769		
目標値	1,100人(4年間累計)	達成率	133.7%	142.7%		
備考	目標値は2021~2024年度の累計	達成度	5	5		

3 関連する事業名

- ・ 障害者差別解消・共生社会実現プロジェクト事業
- ・ 障害者就業・生活支援センター事業
- ・ 重症心身障害児者と家族の安心生活サポート事業

4 施策達成レベル

5.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

県民・企業・団体などを対象とした研修の実施や県障害者差別解消相談センターによる相談対応等を通じ、障害者差別の解消と共生社会の実現を推進した。
 障害のある人の就労支援については、障害者就業・生活支援センターを核として、雇用と福祉が連携した取組を推進した結果、一般就労への移行者数は着実に増加した。
 在宅で、医療的ケア児等(重度心身障害児者を含む)の子育てや介護を行う家族の負担軽減を図るため、医療的ケア児支援センターを開設するとともに、医療的ケア児等とその家族が県内どこでも安心して生活できるよう、レスパイトサービスの整備・充実等を実施した。

6 今後の施策推進に向けての課題

障害者差別の解消と共生社会の実現に向け、研修への参加促進等に引き続き取り組む必要がある。
 ハローワークや地元企業等と連携しながら、一般就労への移行を促進するとともに、就労定着支援にも取り組み、障害のある人の就労を一体的に支援する。
 今後もレスパイトサービスの整備・充実を進めるとともに、支援拠点である医療的ケア児支援センターと連携し、医療的ケア児及びその家族に対する相談や支援に係る体制整備に取り組んでいく。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	保健医療部 健康推進課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム		
施策名	【重点】感染症対策の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	子宮頸がんの予防法について正しく知っている県民の割合	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	35.8	37.3	38.8	40.0
現況値	32.8% (2020年度)	実績値	41.5	35.6		
目標値	40.0%	達成率	115.9%	95.4%		
備考		達成度	4	3		

指標名	感染症に関する訓練・研修会への参加人数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	1,140	2,350	3,640	5,000
現況値	1,041人/年 (2019年度)	実績値	8,225	9,547		
目標値	5,000人 (4年間累計)	達成率	721.5%	406.3%		
備考	目標値は2021~2024年度の累計	達成度	5	5		

3 関連する事業名

- ・感染症予防事業
- ・「若い命を守る」～知ってなくそう！感染症～事業

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

<p>子宮頸がんの予防法に関する正しい知識の普及や、HIVや梅毒等の検査実施及び相談体制の整備、風しん抗体検査助成制度によるワクチン接種の促進、新型コロナウイルス感染症等に対応するための訓練・研修会の実施による保健所等の行政機関と感染症指定医療機関との連携強化などにより、感染症対策を着実に推進した。</p>
--

6 今後の施策推進に向けての課題

<p>子宮頸がん予防に関する知識について、より一層の普及を図るとともに、エイズや梅毒については、感染の早期発見につなげるため、検査の受検勧奨に取り組むなど、まん延を防止する対策に引き続き取り組んでいく必要がある。また、新型インフルエンザ等の未知の感染症の発生時に十分対応できるよう、引き続き行政機関と感染症指定医療機関との連携強化を図っていく必要がある。</p>

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	保健医療部 医薬安全課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム		
施策名	【推進】療養生活の質の向上		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	340	480	620	760
現況値	2,640人(2019年)	実績値	340	560		
目標値	3,400人	達成率	100%	116.7%		
備考	2022年度:3,200人(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	4	4		

指標名	内容	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	640	670	700	730
現況値	610人(2020年度)	実績値	493	576		
目標値	730人	達成率	77%	86%		
備考		達成度	2	3		

3 関連する事業名

- ・難病特別対策推進事業
- ・がん患者及び家族の生活の質(QOL)維持向上支援事業

4 施策達成レベル

3.5	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

各がん診療連携拠点病院が開催する緩和ケア研修会に加え、各拠点病院の研修に参加できなかった医師等を対象に県主催で研修を実施することにより、がん患者に適切に緩和ケアが提供できる体制の強化を図った。
 難病のある人や家族からの療養・就労に関する相談への対応、入院施設の確保、在宅難病患者のレスパイト入院事業等を行うことにより、難病のある人の療養生活の質の向上を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、医師等の研修受講を促進する必要があることから、各がん診療連携拠点病院を通じて、院内外を問わずより多くの医師等に研修への参加を促すよう働きかける必要がある。また、県主催の研修会を開催し、各拠点病院での研修を受講できなかった医師等の受講機会を提供する必要がある。
 指定難病の対象疾病の追加や多様化する患者・家族のニーズを踏まえ、引き続き個々の状況に応じたきめ細かな支援を行う必要がある。また、難病診療連携拠点病院、協力病院、準協力病院による難病医療提供体制の充実を図るとともに、医療従事者向け研修等を通じ、難病の早期診断等につなげていく必要がある。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	子ども・福祉部 長寿社会課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム		
施策名	【推進】認知症対策の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	「チームオレンジ」を整備した市町村数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	4	7	10	23
現況値	—	実績値	3	6		
目標値	23市町村（4年間累計）	達成率	75%	85.7%		
備考	目標値は2021～2024年度の累計	達成度	2	3		

3 関連する事業名

- ・認知症高齢者を地域で支える基盤強化事業
- ・VR（仮想現実）システムによる認知症普及啓発事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

認知症に係る専門的な診断を行う認知症疾患医療センターの設置や医療・介護従事者を対象とした研修の実施、認知症サポーターやキャラバンメイトの養成、おかやま認知症コールセンターやおかやま若年性認知症支援センターの設置、VR（仮想現実）を活用した出前研修会による認知症に関する正しい知識の普及等により、認知症の人やその家族を地域で支える体制の整備が図られた。

チームオレンジについては、市町村職員やコーディネーターを対象とした研修会等の実施により、設置促進に取り組んだ結果、新たに県内3市に設置された。

6 今後の施策推進に向けての課題

高齢化の進展に伴って、認知症の人の増加が見込まれることから、早期の段階からの適切な診断の実施や、診断後の福祉・介護サービスへの円滑な連携の推進、認知症に関する正しい理解に基づく本人と家族への支援等を通じ、地域で支える体制の一層の強化を図る必要がある。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名

担当部課室 子ども・福祉部 障害福祉課

重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム
施策名	【推進】発達障害のある人のトータルライフ支援の推進

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	発達障害について身近に相談できるかかりつけ医の数(累計)	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	50	76	91	106
現況値	194人(2016~2019年度の累計)	実績値	83	110		
目標値	300人	達成率	166%	144.7%		
備考	2022年度:304人(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	5	5		

3 関連する事業名

- ・発達障害者地域支援体制サポート事業
- ・子どもの健やか発達支援事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」を受講した医師数(実人数)が目標を上回り、発達障害への対応力を備えた人材の育成を進めることができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」については、発達障害のある子どもの早期発見・早期支援に資するよう、引き続き医療機関への周知に努め、受講者のさらなる拡大を図っていく必要がある。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名

担当部課室 保健医療部 健康推進課

重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	保健・医療・福祉充実プログラム
施策名	【推進】精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	14.0	13.7	13.4	13.0
現況値	14.3(2019年)	実績値	16.8	15.8		
目標値	13.0	達成率	※83.3%	※86.7%		
備考	(第3次岡山県自殺対策基本計画2025年目標)	達成度	3	3		

3 関連する事業名

- ・地域包括ケア型精神科在宅支援(アウトリーチ)事業
- ・自殺対策推進事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

・令和3(2021)年3月に策定した第3次岡山県自殺対策基本計画を踏まえ、医療や法律など関係団体による自殺対策連絡協議会の開催や相談窓口リーフレットの配布による自殺対策普及啓発活動、電話相談の実施や人材育成などを行い、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けて取組を推進した。
 ・多職種専門チーム(医師、保健師、精神保健福祉士等)による訪問等により、未治療者・治療中断者の精神障害者などの対象者を地域での支援に繋げる取組を実施し、県内5チームによる延750件の訪問を行った。

6 今後の施策推進に向けての課題

・岡山県の令和4(2022)年の自殺死亡率は昨年より減少したものの、自殺の多くは様々な要因が連鎖する中で起きていることから、引き続き、県自殺対策推進センターによる相談対応や相談窓口の周知、愛育委員等による声かけ活動など、地域の多様な関係機関・団体等と連携しながら、県を挙げて自殺対策に取り組む必要がある。
 ・精神障害の有無や程度に関わらず、誰もが安心して暮らすことができる社会を目指して、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進めるために、未治療者・治療中断者、ひきこもり状態にある精神障害者に対し、地域で生活を支えるための多職種チームによるアウトリーチと、身近な地域支援者の多機関ネットワークによる重層的な取組が必要である。